

全ての子どもは 豊かな愛情のおかげで、心身ともに健やかに育てられ、自ら伸びていく無限の可能性をもっています。

子どもが 現在(いま)を幸せに生活し、未来(あす)を生きる力を育てる

全職員の研修を受けています



2022.11.15

なかさが ほとつうしん

〈子どもの最善の利益の尊重〉

大人が考える「子どものため」ではなく、「子どもにとってもっとも良いこと(イイ可か)」を第1に考えなければなりません。安全が守られ、安心して自信をもって生きる権利

● 生きる権利・育つ権利

● 意見を表わす権利、表現する権利

子どもは自分に関係のあることについて自由に自分の意見をもちます。その意見は、子どもの発達に応じて、十分考慮されなければなりません。子どもは自由な方法で、いろいろな情報や考えを育てる権利、知る権利をもちます。ただし、ほかの人に迷惑をかけることはありません。

● 虐待・放任からの保護

● 障がいのある子ども

じやからだに障がいがあっても、その子どもの個性やまりの傷つけられておけません。

● 教育の目的

教育は子どものもっているよいところをどんどんのびていくためのものです。教育によって、子どもが、自分も他人もみんなが同じよう大切にされているということや、みんながよくなるということ、みんなの生きている地球の自然の大切さなどを学ぶようにしなければなりません。



子ども虐待のとりえ方 (引用 子ども虐待の手引き)

子ども虐待は、子どもの心身の成長及び人格の形成に重大な悪影響を与えるとともに、次の世代に引き継がれるおそれもあるものであり、子どもに対する最も重大な権利侵害である。「個別の事例において(虐待であるかどうかは、保護者(保育士)の意向の如何によらず、子どもの立身や子どもの安全と健全な育成が図られているかに着目して判断すべきである。保護者(保育士)の中には自らの暴行や体罰などの行為を「しつけ」であると主張する場合があるが、これらの行為は、子どもにとって効果が無いばかりか、悪影響をもたらすものであり、不適切な行為であることを認識すべきである。」

虐待の定義:

- ① 心理的虐待
- ② 身体的虐待
- ③ ネグレクト
- ④ 性的虐待

(言葉の暴力場面を見たり、きいたりするもこれにあたるそうです)
(1歳前後から2歳10か月頃の自我の芽生え、「イヤ!」「ダメ!!」と主張し、自我拡大していく頃(虐待が起きやすいとも))

乳幼児期の愛着をめぐる問題、自己肯定感が育たないと発生する課題は、学童期のいじめや自殺、思春期のひきこもりなど、大きく後には悪影響します。

※思春期に支配されてイヤなことを小学校に訴える例に... とも。

子どもを追いやる言葉の例

- × 「早くして」... 子どもが十分に遊ぶ時間を保障してあげないと、子どもに次の見直しを促す時によく使っている。
- × 「どうしてするの!」「アセ?」... 詰問の言葉は子どもを追いやる 反発感情を生みやすい。

しめい方が良いこと

叱責、罰を与える、恥をかかせるのは× 大きい声、荒らけた声で叱るのは×
○ その子に「仲間」になる声で落ち着いて話す。 ○ 負の評価をしめい。 (低い声は恐怖心を呼び覚ます×)